

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 4 年 9 月 14 日(2022.9.14)

【公開番号】特開 2020-192067(P2020-192067A)

【公開日】令和 2 年 12 月 3 日(2020.12.3)

【年通号数】公開・登録公報 2020-049

【出願番号】特願 2019-99167(P2019-99167)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 9 月 6 日(2022.9.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、

第 1 位置から該第 1 位置より下方の第 2 位置へ自重により落下可能な可動体と、  
前記可動体に対し相対移動可能に設けられ、該可動体の前記第 1 位置から前記第 2 位置へ  
の落下に応じて移動する連動部と、

一端部と他端部とを有し、前記一端部と前記他端部との間で前記連動部の移動を案内する  
案内部と、

前記可動体を前記第 1 位置から前記第 2 位置へ落下可能に支持するベース体と、

を備え、

30

前記連動部は、

前記可動体の前記第 1 位置から前記第 2 位置への落下に応じて前記案内部の前記一端  
部側から前記他端部側に移動し、

少なくとも前記可動体が前記第 2 位置まで落下して該第 2 位置にて移動が規制された  
ときに、前記案内部の前記他端部に当接しないように設けられ、

前記可動体に設けられる可動体側連動部と、前記ベース体に設けられるベース体側連動部  
と、を有し、

前記案内部は、前記可動体に設けられる可動体側案内部と、前記ベース体に設けられるベ  
ース体側案内部と、を有し、

前記可動体は、前記可動体側連動部と前記ベース体側連動部とを連結する特定可動部を含  
む

40

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

手段 A の遊技機は、

遊技が可能な遊技機であって、

50

第 1 位置から該第 1 位置より下方の第 2 位置へ自重により落下可能な可動体と、  
 前記可動体に対し相対移動可能に設けられ、該可動体の前記第 1 位置から前記第 2 位置へ  
 の落下に応じて移動する連動部と、  
 一端部と他端部とを有し、前記一端部と前記他端部との間で前記連動部の移動を案内する  
 案内部と、  
 前記可動体を前記第 1 位置から前記第 2 位置へ落下可能に支持するベース体と、  
 を備え、  
 前記連動部は、  
 前記可動体の前記第 1 位置から前記第 2 位置への落下に応じて前記案内部の前記一端部側  
 から前記他端部側に移動し、  
 少なくとも前記可動体が前記第 2 位置まで落下して該第 2 位置にて移動が規制されたとき  
 に、前記案内部の前記他端部に当接しないように設けられ、  
 前記可動体に設けられる可動体側連動部と、前記ベース体に設けられるベース体側連動部  
 と、を有し、  
 前記案内部は、前記可動体に設けられる可動体側案内部と、前記ベース体に設けられるベ  
 ース体側案内部と、を有し、  
 前記可動体は、前記可動体側連動部と前記ベース体側連動部とを連結する特定可動部を含  
 む  
 ことを特徴としている。

10

手段 1 の遊技機は、  
 遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、  
 第 1 位置（例えば、第 3 原点位置）から該第 1 位置より下方の第 2 位置（例えば、第 3  
 演出位置）へ自重により落下可能な可動体（例えば、第 3 可動体 502）と、  
 前記可動体の前記第 1 位置から前記第 2 位置への落下に応じて移動する連動部（例えば  
 、ガイド軸 549A～549D、ガイド軸 572L、572R、回転軸 571）と、  
 前記連動部に当接可能な一端部と他端部とを有し、前記一端部と前記他端部との間で前  
 記連動部の移動を案内する案内部（例えば、長孔 547A～547D、長孔 563A～5  
 63D、長孔 573L、573R、長孔 565）と、  
 を備え、  
 前記連動部は、

20

前記可動体の前記第 1 位置から前記第 2 位置への落下に応じて前記案内部の前記一端  
 部側から前記他端部側に移動し、  
 少なくとも前記可動体が前記第 2 位置まで落下したときに、前記案内部の前記他端部  
 に当接しないように設けられている（例えば、第 3 可動体 502 が第 3 演出位置に到達し  
 たとき、第 1 可動部 532A、532B のガイド軸 549A、549B は、スライド部材  
 534L、534R の長孔 563A、563B 及びベース部 531 の長孔 547A、54  
 7B の上端側に位置しているが、上端に対し長さ L12 だけ離間しており（図 25（B）  
 参照）、第 1 可動部 532C、532D のガイド軸 549C、549D は、スライド部材  
 534L、534R の長孔 563C、563D 及びベース部 531 の長孔 547C、54  
 7D の下端側に位置しているが、特に図示しないが、下端に対し長さ L12 だけ離間して  
 いる（図 25（B）参照）。）

30

ことを特徴としている。  
 この特徴によれば、可動体が第 2 位置まで落下したときに連動部は案内部の他端部と当  
 接しないので、落下により連動部が案内部の他端部に勢いよく衝突して案内部や連動部が  
 破損することや大きな衝突音が発生することを抑制することができる。

40